

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：看護学科

資格：准教授

氏名：山口 舞子

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学，看護技術教育，看護DX教育	リラクゼーション技法，ケア評価，自律神経評価，罨法，多重課題シミュレーション
学位	最終学歴
博士（看護学）	大阪府立大学大学院看護学研究科博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.1. 大学院修士課程での測定指標の適切性に関連した文献クリティーク	2024年4月から現在	大学院修士課程の院生に対し、学生の興味関心ある複数の文献と一緒に読み、研究で用いられている指標の説明を行いながら、研究疑問に対して指標そのものが適切なのかについてディスカッションを行い、自己の研究に活かせるように授業を行っている。
2. 大学院修士課程での生理的指標の分析体験	2024年4月から2025年3月	大学院修士課程の院生に対し、生理学的指標のうち唾液中ストレスマーカーの分析に立ち会う機会を設け、分析作業の一部を体験的に学習した。また、心拍変動解析も実際に行い、生理学的指標を用いた研究手法について学習する機会を設け、自己の研究テーマにあった研究方法が考えられるよう工夫している。
3. シミュレータを活用した看護技術演習の工夫	2024年1月から2025年3月	「日常生活援助技術」では臨地実習を想定した「腰痛圧迫骨折による痛みのある患者の陰部洗浄」の演習を設定した。患者は高機能シミュレータナーシング・アン（高齢者モデル，レールダール社）を用い、体位変換時に「痛い、痛い」と声をあげたり、咳き込んだりする設定を行い、看護技術だけでなく声かけや配慮など、知識・技術・態度の全てを意識したシミュレーション教育に取り組んでいる。
4. 紙面上事例やVRシミュレーションを用いたヘルスアセスメント演習の工夫	2022年12月から2025年3月	フィジカルアセスメントの講義・演習の中で、VRシミュレータX training for Nursing(コミュニケーション・プランニング社)を用い、CG上の患者に問診、視診等の身体診査を行い、アセスメントを行う授業を取り入れている。学生は「リアルである」、「問診と視診でわかることが多くある」、「しんどい患者さんに効率的に問診をできるようにになりたい」という感想を抱き、学習の動機づけにもなっている。その後、紙面上での別の事例演習を行い、患者を具体的にイメージしながら演習を行っている。
5. 360度カメラを活用したシミュレーション教育の実施	2022年7月から2024年7月	4年生臨地実習最後に行われる「総合実習」内で、実務に即して看護を実践する能力を育成することを目的に、多重課題シミュレーション演習を取り入れている。看護師は一人の患者にのみ注意を払うのではなく、病室全体を把握し微細な物音にも反応する必要性を学ぶため、シミュレーションの様子を360度カメラで撮影し、デブリーフィングで場면을視聴することで、具体的に状況を振り返るような取り組みを行っている。
6. 看護実技試験における即時フィードバックと録画動画によるリフレクションの導入	2021年11月から2025年3月	看護技術教育内で実施する実技試験では、技術教育の質の担保と、成績評価の根拠資料とするため、全学生の実技試験をiPadで録画するとともに、技術チェックシート（評価表）を複写式にし、試験終了後すぐに学生へ配布、即時フィードバックを行っている。録画した動画は、学生が技術向上を目的として、希望すれば教員とともに視聴しリフレクションを行うことができる。
7. ユニバーサルデザインを意識した教材作成と視聴覚教材を活用した講義の工夫	2020年4月から現在	近年、合理的配慮を要する学生の対応が必要となり、誰もが学習しやすい講義と資料の作成を意識して取り組んでいる。講義資料や講義スライドは複数のテキスト

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8. 遠隔実習の構築と実施	2020年4月から2022年3月	<p>トの内容から構成されることが多い。学生は講義資料、テキスト、スライドと複数の資料を授業内で閲覧することが多く、混乱する学生が一定数いる。そのため基本的に講義スライドや資料には必ずテキストの該当ページ記載し、視覚的に今どこの内容を説明しているのかを明示しながら説明をすることを意識している。視聴覚教材を使用する場合は資料にURLも記載するなど、授業時間外や定期試験前の学習時に復習できるように工夫している。</p> <p>COVID-19感染拡大に伴う対面での臨地実習が困難であった時期において、Zoomを用いたオンライン実習の計画、教材準備、オンライン指導の全てを担った。基礎看護学実習Ⅰでは、高齢者施設とZoomをつなぎ、施設管理者、施設の看護師、施設の管理医師の講義と質疑応答ができるよう調整や運営を担った。2年次の看護過程を展開する実習では、日にちごとに患者情報が更新されるような模擬カルテの作成やオンラインでの指導体制の整備を中心的に担ったオンライン実習は学生が受け身の学習になりやすいが、ディスカッションタイムやオンラインカンファレンス、教員との個別指導時間を設け、発表や相談ができる機会を設ける工夫を行った。</p>
9. 危険予知トレーニング (KYT) を取り入れた医療安全教育の工夫	2017年4月から現在	<p>看護技術科目において、臨床現場での実施頻度が高く、かつ実際に医療事故が起きている事例を挙げながら、安全な看護を提供するために必要なリスクに対する感性と具体的な対策を考えられる思考を獲得することを目標とし、授業を行っている。具体的には看護場面のイラストを用い、学生同士、そして教員とディスカッションを行いながらリスク要因を挙げ、原因と対策、対策をしない場合の結果を言語化することで、安全に対する意識を高め、患者も自分も守るための知識を養うような授業の工夫を行っている。</p>
10. 知識、技術と問題解決型思考を統合し、臨床推論力を高める看護過程の事例作成	2017年4月から2025年3月	<p>看護過程科目において、事例作成を担当している。看護技術の学習進度と内容を関連させた事例を作成することで、技術とアセスメントを関連させて学習し、より具体的な看護計画の立案につなげられるような事例作成を行っている。</p>
11. 学部・学域を超えた学生を対象とした教養科目の講師	2016年4月2025年3月	<p>1年生前期の全学必修科目である初年次ゼミナール（教養科目）では、学部・学域を問わず全1年生が、各自の興味・関心に基づき学習テーマを決め、15～20人の少人数ゼミナール形式で学習を行う授業であり、これまで「医療系における実験研究入門」、「ストレス反応を捉える」、「ストレスとリラクゼーション」といったテーマで担当した。</p>
12. ストレスとの向き合い方について考える体験型学習の導入	2015年4月から現在	<p>ストレスとリラクゼーション反応について理論的に学習し、呼吸法・漸進的筋弛緩法、アロマセラピー、音楽療法等様々なリラクゼーション技法について体験的な学習を行っている。その中で、学生は実施前後の脈拍数や心理的状态をVASで評価し、自分に合ったストレス対処法について考えを深めていく。その際、小グループでのディスカッションを行い、自己と他者の感じ方は異なることを学習し建設的な意見交換のあり方も学習している。</p>
13. ルーブリック評価による実習評価	2014年9月から2025年3月	<p>基礎看護学分野における全ての臨地実習では、成績評価の公平性と客観性、評価基準を明確化するルーブリック評価を採用し、実習担当者として全ての評価表の作成と見直しに携わっている。これにより複数の教員が評価に携わる際にも評価基準が一定となり客観性・妥当性を確保できる。さらに、ルーブリック評価表を学生と教員が共有することで実習を通して今何を</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		学んでいるのか、何が課題であるかを客観的に認知でき、学生のメタ認知力を高めることができています。
2 作成した教科書、教材		
1. 現任教育オンデマンド配信講座の講義動画	2025年4月1日から	学研ナーシングサポート・看護管理者特別コースIIにおける、「高パフォーマンスな組織形成のための心理的安全性」というテーマで、1. 看護の現場における「心理的安全性」とは、2. 心理的安全性を低下させる4つの要因、3. 心理的安全性を担保し、高パフォーマンスな組織の形成をめざすについて、オンデマンド配信講義動画を作成した。 「滅菌手袋の着脱」、「筋肉内注射（三角筋・中殿筋）」の単元において、実施者視線で患者説明、注射部位の選定、注射の実施を撮影し、授業前のイメージトレーニング教材として、また授業後の復習や技術向上のための教材として提供している。
2. アクションカメラ（視線カメラ）動画教材の作成	2024年5月から現在	
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. JaNSSL指導者養成コース（ベーシック・アドバンス1コース）修了	2024年7月2025年1月	日本看護シミュレーション・ラーニング学会によるINACSL(International Nursing Association for Clinical Simulation and Learning)ベストプラクティスに準拠されたシミュレーションシナリオを教材を使用したシミュレーション教育指導者養成研修会に参加し、ベーシックコース・アドバンス1コースを修了しており、シミュレーション教育を実践する基本的能力を有していると評価されている。 東京医療保健大学和歌山看護学部にて「リラクゼーション論（3年次選択科目・1単位）」を担当している。ストレスとリラクゼーション反応について理論的に学習し、体験学習を通して、自分にあったストレスの対処法を見出したり、様々なリラクゼーション技法の効果と留意点について学習をし、セルフケアや看護への活用について体験的な学習を実施している。 看護職や介護職などケア実施者に腰痛予防に必要な知識と技術を普及すること、臨床において腰痛予防対策を推進していけるリーダー的人材を育成することを目的とした研修会における企画・運営と実技研修のインストラクターを担った。 大阪府羽曳野市主催、はびきの市民大学市民公開講座にて「膝の痛みとの付き合い方～変形性膝関節症の場合～」というテーマで高齢者向けの講演を行った。 大阪府立大学看護学部、大阪公立大学看護学部において、各学年の学生5～6名を担当し、学生生活、履修相談、進路相談、欠席が多い学生への支援、必要時保護者対応を行っている。4年生のアドバイザー学生に対しては、国家試験対策指導も担当した。 大学内模擬授業として高校生に対し安楽に関する講義と、リラクゼーションを技法に関する体験型授業を実施し、看護の対象となる人、そして自身のセルフケアについて考える機会を提供した。
2. 研究の専門性を踏まえた他大学看護学部での非常勤講師	2020年4月から現在	
3. 看護職・介護職のための腰痛予防対策推進リーダー研修会	2016年9月2022年10月	
4. はびきの市民公開講座講師	2013年11月	
5. 学生アドバイザー業務	2012年4月2025年3月	
6. 高校生対象模擬授業		
4 その他		
1. 文部科学省ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の担当	2022年3月20日から2023年3月31日	令和3年度文科省補正事業の応募に際し、学部内の有志グループで申請を行い、採択（10,000,000円）された。その際の、申請書の作成、事業の実施、報告書の作成の全ての過程においてリーダー役割をになった。本事業により、看護学部VRシミュレーション、VR教材作成機器を導入し、看護DX教育の推進を担った。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師	2005年4月22日取得	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2. 看護師	2005年4月22日取得	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大阪公立大学看護学部 実践看護科学領域 基礎看護科学分野看護技術学 (※大学統合により2022年度より所属名変更)	2022年4月1日から2025年3月31日	専任講師として、学部・大学院教育、研究、社会貢献活動等を実施した。
2. 保健所体制強化に関わる保健師・看護師への応援派遣	2021年9月1日から2021年9月30日	大阪府からの教員派遣要請に基づき、大阪市保健書にて、新型コロナウイルス陽性者・濃厚接触者の疫学調査(個別・集団)業務を担った。
3. 保健所体制強化に関わる保健師・看護師への応援派遣	2021年9月1日2021年9月26日	大阪府からの教員派遣要請に基づき、大阪市保健書にて、新型コロナウイルス陽性者・濃厚接触者の疫学調査(個別・集団)業務を担った。
4. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン集団接種対応看護師	2021年7月4日から2021年9月26日	羽曳野市からの大阪府立大学看護学部教員派遣要請に基づき、イズミヤ古市店での羽曳野市集団接種会場にて、新型コロナウイルスワクチン接種対応看護師業務を担った。
5. 商業施設内メディカルセンターにおける感染アドバイザー・新型コロナウイルスワクチン接種運営担当者	2020年10月1日から2022年3月31日	大阪市内商業施設にあるメディカルセンター内にて、クリニックの新型コロナウイルスワクチン接種会場の説明、運営や医療安全に関するスタッフ教育を担った。また、集団PCR検査実施におけるフロア内の動線管理、会場設営、医師との調整を中心的に担った。また当該施設は商業施設の喫茶エリアと隣接していたため、喫茶エリアの感染対策・運営に関して助言を行った。
6. 大阪府立大学地域保健学域看護学類 基礎看護学領域看護技術学分野	2012年4月1日から2025年3月31日	2012-2014年度まで助教、2015年度から専任講師として、教育・研究、社会貢献活動等を実施した。
7. 看護師として無床診療所における管理職業務と継続看護の実践	2009年9月から2012年3月	腎・泌尿器科クリニックにて、非常勤看護師として勤務。腎移植後の患者の継続医療・看護を行った。また、高齢者に多い尿失禁や頻尿といった排尿障害に関連した生活指導や、経静脈的腎盂造影検査の介助等を担った。また、往診にも同行し、在宅医療にも携わった。2011年からは、看護師のシフト管理、ならびに医療材料の在庫管理も担当した。
8. 大阪府立急性期・総合医療センター 看護師	2005年4月2012年12月	2005年4月～2009年3月の4年間は常勤看護師として整形外科・形成外科における周手術期の看護や、耳鼻咽喉・頭頸部外科の抗がん剤治療に伴う看護や眩暈・顔面神経麻などを有する患者の看護を経験した。2009年4月からは病棟で夜勤専従看護師(非常勤)として、看護を実践した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 会話の場面でわかる！看護聞き言葉使い方辞典	共	2022年5月	エクスナレッジ社	看護学生や新人看護師にとって聞きなじみのない臨床現場で用いられている専門用語や業界用語の解説と、どのような場面でその言葉が使用されるのかがイメージしやすいように、イラストにまとめて辞書
2. ミッフィーの早引き 看護聞き言葉・略語ハンドブック 増補改訂版	共	2021年10月	エクスナレッジ社	看護学生や新人看護師が臨床現場で用いられるさまざまな専門用語の意味について、サッと引けば基本的な意味をすぐに確認できるような辞書
2 学位論文				
1. 人工膝関節全置換術術後に下肢疼痛をもつ患者に対する看護ケアの開発	単	2014年3月	大阪府立大学大学院看護学研究科	人工膝関節全置換術(以下、TKA)を受けた患者の疼痛の実態を明らかにし、疼痛緩和の看護ケアを開発することを目的とした。【予備研究】TKA術後2週目以降、歩行時に手術部以外の下腿や大腿などに疼痛が生じていた。【本研究】TKA術後患者17名を対象にリハ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2. 変形性膝関節症患者に伴う疼痛がある患者に対する看護介入の効果-温罨法と音楽聴取を用いて-	単	2011年3月	大阪府立大学大学院看護学研究科	<p>ピリテーション（以下、リハビリ）前に安静と下腿への足浴を15分間行うケアと、リハビリ前に足浴をしない標準ケアを実施するクロスオーバー研究を行った。結果、足浴ケアで主観的な疼痛の緩和効果が得られ、歩行機能の早期回復とそれに伴う生活の質の向上につながる可能性が示唆された。</p> <p>変形性膝関節症患者への膝の疼痛緩和ケアを検討する基礎的研究として、健康な成人女性8名に対し安静、膝関節部への温罨法、および音楽聴取、さらに、温罨法と音楽聴取を組み合わせケア(以下組み合わせケア)の4種類を実施した。結果、ケア全てにおいて対象者の気分が有意に改善し、組み合わせケアでは、s-IgA濃度と分泌率がケア後に有意に上昇し、対象者の免疫能を高める可能性が示唆された。</p>
3 学術論文				
1. 360度カメラを活用した多重課題シミュレーション演習の実践報告（査読付）	共	2023年3月	大阪公立大学看護学雑誌, 第1巻, p.51-55.	<p>A大学基礎看護学領域の総合実習（4年次）の履修生22名に対し、多重課題シミュレーション演習を実施した。その様子を360度カメラで撮影した。実習後に教員が撮影動画を確認し、360度動画は病室全体を俯瞰でき、実施者・患者視点など視点を自由に切り替えながら、その時の状況を客観的に振り返ることが可能な教材であることを確認し、通常の動画撮影より教育効果が高い可能性が示唆された。</p> <p>本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同著者名：山口舞子、益加代子、志田京子、奥野亜希</p>
2. 高齢者に対する沐浴剤清拭の皮膚保湿効果の検討（査読付）	共	2020年12月	日本看護技術学会誌, 19, p.113-120.	<p>地域在住の65歳以上の高齢者27名を対象に沐浴剤清拭と温湯清拭を比較し皮膚保湿効果について検討した。結果、清拭方法の違いによる皮膚保湿機能への影響にも差はなく保湿効果はなかった。また、角質水分量では清拭直後に有意に上昇した後、10分、20分後に有意に低下し高齢者の皮膚は清拭という弱い刺激であっても非常に乾燥しやすいことが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共著者：大泉綾亮、杉本吉恵、中岡亜希子、伊藤良子、山口舞子</p>
3. 保健医療従事者を対象とした腰痛予防推進リーダー研修会の活動と評価（査読付）	共	2020年3月	大阪府立大学看護学雑誌, 26(1), p.79-85.	<p>福祉用具を使って介助者の身体に負担がかからず、かつ患者・利用者にとって安全な移乗介助を行う知識と技術を普及する研修会に参加した介護職・看護職延べ63名に対し、研修会の評価、および受講後の腰痛の変化、職場での腰痛予防推進の取り組みや実施する上での困難について調査した。対象者の大半は少し腰痛が軽減したと回答し、研修会が腰痛予防ならびに腰痛悪化予防に寄与した可能性が示唆された。職場に介助用リフトがなく研修会内容が実践にはつながらないという課題が明らかとなった。</p> <p>本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 共著者：山口舞子、山地佳代、杉本吉恵</p>
4. ナノミストを用いた足浴が気分と唾液アミラーゼ活性へ与える影響：温湯を用いた足浴との比較（査読付）	共	2015年3月	大阪府立大学看護学部紀要, 21(1), p.31-39.	<p>成人女性9名に対し、ナノミストを用いた新しい足浴(NM足浴)と、一般的な温湯を用いた従来の足浴(足浴)を1回ずつ実施し、対象者の気分と交感神経活動への影響を評価した。足浴では足浴前から足浴直後へと有意に気分が改善し、NM足浴では足浴前から足浴直後に有意に気分が改善した。唾液アミラーゼ活性は足浴前から足浴直後にかけて足浴では低下傾向を示し、NM足浴では上昇傾向を示し、足浴方法の違いによって交感神経活動への影響が異なることが示唆された。</p> <p>本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 共著者：山口舞子、杉本吉恵、中岡亜希子、金田典子、林愛実、増山栄利、岩崎幸恵、隅田千絵</p>
5. 健康人に対する両膝関節部温罨法と音楽聴取がもたらす生理的・心理的变化（査読付）	共	2013年4月	日本看護技術学会誌, 12(1), p.74-84.	<p>変形性膝関節症患者への膝の疼痛緩和ケアを検討する基礎的研究として、健康な成人女性8名に対し安静、膝関節部への温罨法、および音楽聴取、さらに、温罨法と音楽聴取を組み合わせケア(以下組み合わせケア)の4種類を実施した。結果、ケア全てにおいて対象者の気分が有意に改善し、組み合わせケアでは、s-IgA濃度と分泌率がケア後に有意に上昇し、対象者の免疫能を高める可能性が示唆された。</p> <p>本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 共著者：山口舞子、杉本吉恵、田中結華、高辻功一</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
6. 整形外科患者が設定する退院目標の疾患別傾向（査読付）		2007年4月	日本看護学会論文集 成人看護I, 38号, p. 179-p. 181.	整形外科病棟で入院・手術した患者242名の退院目標から、入院・手術が必要となった疾患に関わらず退院目標は「歩行」、「痛み」、「しびれ」、「社会生活」など6つに分類された。疾患に関わらず歩行が第一の目標であったが、患者の設定する目標はひとつだけではなく、歩行に症状の軽減や社会生活の再開など複数の目標が含まれていることが明らかとなった。 本人担当部分：データ分析（担当頁特定不可能） 共著者：越智理美、田中奈美、福満（山口）舞子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 情報機器作業に伴う背部痛や凝り感に対する背部温罨法と指圧の効果		2024年10月27日	第22回日本看護技術学会学術集会（札幌市） 講演抄録集p. 87	情報機器作業に伴う頸肩部や背部の痛みや凝り感を有する対象者13名に対し、背部温罨法（以下温罨法）と指圧の単独実施時、および温罨法に指圧を加えた時（以下温罨法+指圧）の緩和効果を検証した。温罨法、指圧、温罨法+指圧は、心理的には凝り感、倦怠感、痛みの症状を緩和し、気分も改善した。また安静と比べ温罨法+指圧が痛み、および背部の症状の緩和効果が得られた。 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析、発表 共同発表者：山口舞子、杉本吉恵、相原ひろみ、伊藤良子
2. Practice and Evaluation of multitasking Simulation for Nursing Students: Attempted Debriefing Using a 360-degree Video	共	2024年8月	8th World Academy of Nursing Science Congress (Indonesia), Paper ID369.	A大学看護学部4年生22名を対象に360度動画を活用した多重課題シミュレーション演習実施し、学生による学習成果とプログラム評価を行った。22名のうち、11名の回答を得た。学生は「優先順位を考えて観察を行うことができた」、「他の学生が行った振り返りの視点が参考になった」と高く評価し、学生の状況理解力と思考力を養うという点で、実践的な教育プログラムであったと考えられた。 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析、発表 共同著者名：山口舞子、益加代子、奥野亜希、志田京子
3. 2人介助による車椅子・ベッド間移乗介助時の介助者の腰部負担	共	2019年9月	第18回日本看護技術学会学術集会（福井市） 講演抄録集p. 105.	対象者16人が、モデル人形を患者にみたくてベッドと車椅子間を移乗させた。その際の介助者の腰椎椎間板圧縮力を算出し腰部負担を評価した。結果、2人の介助者でN10SHの定める腰部負担危険値（3400N以上）を示し、身長差の少ない2人での移乗介助を実施しても腰痛発生の危険性があるため、原則補助具の使用が推奨されることが示唆された。 本人担当部分：研究計画補助（担当頁特定不可能） 共同発表者：赤井悠、杉本吉恵、中岡亜希子、山口舞子、伊藤良子
4. 高齢者に対する沐浴剤清拭の皮膚保湿効果の検討	共	2019年9月	第18回日本看護技術学会学術集会（福井市） 講演抄録集p. 66.	65歳以上の高齢者27名を対象に、沐浴剤清拭と温湯清拭による皮膚保湿効果を比較検討した。高齢者に対する清拭では、沐浴剤清拭と温湯清拭に関わらず角質水分量が有意に減少し、皮膚の乾燥を招く危険性が示唆された。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同発表者：大泉綾亮、杉本吉恵、中岡亜希子、伊藤良子、山口舞子
5. 沐浴剤清拭による皮膚の保湿効果と洗浄効果－温湯清拭と比較して	共	2018年8月	第44回日本看護研究学会学術集会（熊本市） 講演抄録集p. 529.	20～64歳までの成人20名を対象に沐浴剤清拭と温湯清拭の2種類を実施した。経皮蒸散水分量TEWLで清拭後10分、20分後の測定値が沐浴剤使用で有意な減少、温湯清拭で有意に増加した。以上から、沐浴剤清拭は温湯清拭と比較して皮膚保湿に影響することが示唆された。 本人担当部分：データ収集、分析補助（担当頁特定不可能） 共同発表者：大泉綾亮、杉本吉恵、中岡亜希子、伊藤良子、山口舞子
6. 医療施設・介護保健施設の腰痛及び腰痛予防対策の実態(第3報)看護・介護従事者の疲労と関連要因		2018年8月	第44回日本看護研究学会学術集会（熊本市） 講演抄録集p. 386.	近畿圏内の医療施設、介護施設に従事する看護・介護従事者の身体的疲労感とその関連要因を検討した。調査項目は疲労部位、職業性ストレス簡易調査表、今後の勤務可能年数等であった。疲労部位は腰部が6～7割、頸肩腕部5～6割であった。腰部疲労との相関係数は年齢0.141、今後の勤務可能年数とは-0.241で有意であったことから、身体的疲労、特に腰部疲労の軽減が今後の勤務可能年数に影響を与える可能性が示唆された。 本人担当部分：データ収集、分析補助（担当頁特定不可能）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 医療施設・介護保健施設の腰痛及び腰痛予防対策の実態(第2報)介助者のケア動作時の身体的負担感	共	2018年8月	第44回日本看護研究学会学術集会(熊本市)講演抄録集p. 491.	共同発表者：杉本吉恵、中岡亜希子、山口舞子 近畿圏内の医療施設、介護施設に従事する看護・介護従事者のケア動作における身体的負担感に関する実態調査を実施した。結果ベッドからリクライニング車椅子への移乗やベッド上での枕側への水平移動で、身体的負担感や持ちあげによる負担感が強いことが明らかとなった。移乗動作時に福祉用具を使用している割合は非常に低かった。 本人担当部分：データ収集、分析補助(担当頁特定不可能)
8. 医療施設・介護保健施設の腰痛及び腰痛予防対策の実態(第1報)腰痛予防対策の実施状況と管理者の認識	共	2018年8月	第44回日本看護研究学会学術集会(熊本市)講演抄録集p. 490.	共同発表者：杉本吉恵、中岡亜希子、山口舞子 近畿圏内の医療施設、介護施設での腰痛予防対策の実施状況と看護・介護管理者の腰痛予防対策への認識を無記名自記式質問紙で調査を行った。結果、腰痛予防対策について9割の管理者が重要であると回答した一方で、リフト等の福祉用具の充足率は1割に満たず、財源や保管場所の不足により導入が行われていない現状が示された。 本人担当部分：データ収集、分析補助(担当頁特定不可能)
9. 人工膝関節全置換術術後患者が経験している疼痛の実態	共	2017年10月	第8回日本健康運動看護学会学術集会(大阪市)講演抄録集p. 36.	共同発表者：中岡亜希子、杉本吉恵、山口舞子 人工膝関節全置換術術後患者が経験している疼痛の実態を明らかにするために、13名の患者に対して、術後2, 4, 10週目に聞き取りを行い、3時点での疼痛についてVASで回答を求めた。その結果、調査した3時点の疼痛は統計的に有意な軽減が見られず、強度は弱いものの疼痛が持続している現状が明らかとなった。 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析、発表
10. オーバーレイ型マットレスの体圧分散効果と寝心地評価	共	2017年10月	第16回日本看護技術学会学術集会(東京都)講演抄録集p. 57.	共同発表者：山口舞子、杉本吉恵、中岡亜希子 新たに開発されたオーバーレイ型マットレスと、市販のオーバーレイ型マットレス、標準マットレスの体圧分散を測定し褥瘡の予防効果を検討した。その結果、新たに開発されたマットレスは褥瘡予防効果が得られるほどの減圧はできず、寝心地にも課題が残った。 本人担当部分：研究遂行、データ収集・分析補助(担当頁特定不可)
11. ストレス対処型別による好みの精油を用いた芳香浴のリラクゼーション効果に関する検討	共	2015年10月	第14回日本看護技術学会学術集会(愛媛県)講演抄録集p. 108.	共同発表者：赤井悠、廣地彩香、北野梨夏、山本明香、山口舞子、杉本吉恵、中岡亜希子、岩崎幸恵 健康な学生26名を対象に好みの精油を用いた芳香浴によるリラクゼーション効果を、心理的指標と脳波で評価した。その結果、情動焦点型の対象者で、6種類の中から選んだ好みの芳香浴により、 α 波含有率が有意に増加し、芳香浴によるリラクゼーション効果は対象者のストレス対処型によって異なることが示唆された。 本人担当部分：研究遂行、データ収集・分析補助(担当頁特定不可)
12. 仰臥位から側臥位への体位変換における介助者の腰部負担スライディングシートを用いて	共	2015年10月	第14回日本看護技術学会学術集会(愛媛県)講演抄録集p. 126.	共同発表者：岡村香織、渋川萌美、山口舞子、中岡亜希子、杉本吉恵、岩崎幸恵 移乗移送技術における腰痛に着目し介助者の腰部負担について検討した。腰痛の既往のない看護学生21名を対象に仰臥位から側臥位への体位変換時にスライディングシートを使用する方法と不使用時の介助者の腰部負担を筋電図で評価した。結果、腰部負担ならびに腰部負担感について、シート使用の方がシート不使用よりも軽減していることが明らかになった。 本人担当部分：データ収集、分析補助(担当頁特定不可能)
13. 健康成人に対する足浴とハンドマッサージを組み合わせたケアによる生理的・心理的变化	共	2013年9月	第12回日本看護技術学会学術集会(浜松市)講演抄録集p. 142.	共同発表者：横山由佳梨、石橋鼓、渡辺歩美、杉本吉恵、伊藤良子、山口舞子、中岡亜希子、岩崎幸恵 健康成人16名に対し足浴とハンドマッサージを組み合わせたケアの有効性を唾液 α アミラーゼ及び心地よさの心理的指標により検証し、唾液 α アミラーゼは組み合わせケアにおいて介入後に上昇を認め、これはハンドマッサージによる刺激による交感神経の優位性の影響であると考えられるが、心地よさについては、組み合わせケアの方が有意に高かった。 本人担当部分：研究遂行、データ収集・分析補助(担当頁特定不可) 共同発表者：金田典子、林愛実、増山利栄、山口舞子、杉本吉恵、中岡亜希子、岩崎幸恵、高辻功一

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
14. 変形性膝関節症患者に対する温罨法および音楽聴取を用いた看護介入の効果	共	2011年10月	第10回日本看護技術学会学術集会（東京都） 講演抄録集p. 162.	変形性膝関節症患者（膝OA）31名を、膝関節部温罨法（以下温罨法）群15名、温罨法と音楽聴取の組み合わせ（以下組みあわせ）群16名に無作為に割り付け、ケアによる疼痛の緩和効果を、脳波とSF-MPQ、および心地よさをVASで評価した。心理的には、両群において有意に疼痛が緩和され、脳波は組み合わせ群のみでケア後にα波含有率が有意に増加した。 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析、発表 共同発表者：福満（山口）舞子、杉本吉恵、田中結華、高辻功一
15. ナノミストサウナが及ぼす身体への影響－皮膚の状態と四肢皮膚温の変化	共	2011年10月	第10回日本看護技術学会学術集会（東京都） 講演抄録集p. 191.	健康成人女性8名を対象にナノミストサウナ（以下ミスト）を用いた清潔ケアによる身体への影響を検証した。対象者は40℃のミスト内に10分間座位で過ごした。結果、皮膚温がミスト後15分で有意に上昇し、血圧に有意な変動はなく、循環器系へ影響を与えずに15分間は保温効果があることが示唆された。 本人担当部分：データ収集、分析の補助（担当頁特定不可） 共同発表者：隅田千絵、福満（山口）舞子、伊藤良子、杉本吉恵、田中結華、高辻功一、中山由美、前川泰子、山居輝美
16. 健康人に対する両膝関節部温罨法と音楽聴取がもたらす生理的变化	共	2010年10月	第9回日本看護技術学会学術集会（名古屋市） 講演抄録集p. 166.	変形性膝関節症患者への疼痛緩和ケアを検討する基礎的研究として、健康な成人女性8名に対し安静、膝関節部への温罨法、および音楽聴取、さらに、温罨法と音楽聴取を組み合わせケア（以下組み合わせケア）の4種類を実施した。結果、ケア全てにおいて対象者の気分が有意に改善し、組み合わせケアでは、s-IgA濃度と分泌率がケア後に有意に上昇し、対象者の免疫能を高める可能性が示唆された。 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析、発表 共同発表者：福満（山口）舞子、杉本吉恵、田中結華、高辻功一
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. VRシミュレーションを用いた授業デザインと評価について考える－基礎的看護実践能力の育成を目指して－	単	2023年7月2日	看護エデュケア研究会令和5（2023）年度 第1回定例会（大阪公立大学I-siteなんばキャンパス）	学部の教育目標と照らし合わせ、2年生の基礎看護技術教育における教育デザインの紹介と、VRシミュレーションの位置づけについて説明し、VRシミュレーションによる学生の感想などを紹介した。VRシミュレーションによる教育評価についてディスカッションを行った。
6. 研究費の取得状況				
1. SECIモデルを基盤とした暗黙知の伝達学習システムの開発～エキスパートの知の伝達～	共	2025年4月から	科学研究費補助金（基盤研究C）課題番号：25K13761	本人担当部分：データ収集、分析 共同研究者：井上奈々、石丸翔也、山口舞子、林田裕美、佐竹陽子、徳岡良恵
2. 模擬患者とVRを用いたハイブリッド型多重課題シミュレーションプログラムの開発と評価	共	2023年4月から	科学研究費補助金（基盤研究C）課題番号：23K09790	本研究の目的は、全ての臨地実習を終えた看護学生に対する、模擬患者とVRを用いたハイブリッド型多重課題シミュレーションプログラムの開発と、RCTデザインにより基礎的な看護実践能力が向上するか評価することである。RCTデザインを用いて、模擬患者とVRを併用するハイブリッド型シミュレーションによる教育効果を測定することで、エビデンスの高い新しいシミュレーション教育方法を提示することを目指している。 助成金：416万円 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同研究者：山口舞子、井上奈々、益加代子、奥野裕子、林田裕美
3. 情報機器作業に伴う背部痛や凝り感に対する背部温罨法と指圧の効果	共	2020年4月1日	2020年度日本看護技術学会研究助成	情報機器作業に伴う頸肩部や背部の痛みや凝り感を有する対象者13名に対し、背部温罨法（以下温罨法）と指圧の単独実施時、および温罨法に指圧を加えた時（以下温罨法+指圧）の緩和効果について、心理的・生理的に検証した。 助成金：30万円 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同研究者：山口舞子、杉本吉恵、相原ひろみ、伊藤良子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
4. 福祉用具の開発に対する技術指導	共	2017年4月	共同研究（住友ゴム工業株式会社）※産学連携事業	住友ゴム工業株式会社が開発した福祉用具に対する使用感や改善等に関する評価、ならびに開発担当者に対する福祉用具の使い方に関する基本的知識と技術の指導を行った。 助成金：50万円 本人担当部分：データ収集、分析 共同研究者：杉本吉恵、中岡亜希子、山口舞子
5. 長期間使用可能な高通気性オーバーレイマットレス	共	2016年4月	受託研究（株式会社マルエーニッポ）※産学連携事業	新しく開発されたオーバーレイマットレスの体圧分散力、寝心地について市販のオーバーレイマットレス、通常のマットレスのみの状態と比較する実験研究を実施した。 助成金：50万円 本人担当部分：データ収集、分析 共同研究者：杉本吉恵、山口舞子
6. 「看護師・介護士の腰痛予防・腰部負担軽減製品の開発」に関する看護・介護現場での仕事内容の観察調査	共	2016年4月	共同研究（住友ゴム工業株式会社）※産学連携事業	福祉用具を積極的に導入している医療施設と、介護型病床をもつ総合病院の視察、ならびに近畿圏内の医療施設に対する腰痛予防の実態調査、管理職に対する腰痛予防対策や福祉用具の認識について観察調査を実施した。 助成金：55万4千円 本人担当部分：データ収集、分析 共同研究者：杉本吉恵、中岡亜希子、山口舞子
7. 人工膝関節全置換術術後患者の下肢の疼痛を緩和する温罨法の効果	単	2012年8月	科学研究費補助金（研究活動スタート支援）課題番号：24890204	人工膝関節全置換術術後2週日以降に残存する下肢の疼痛に対して、リハビリなどの運動前に、下腿へ15分間の足浴による温熱刺激を加えた。その結果、リハビリ前に足浴を行わないで運動するよりも、足浴を行ってから運動する方が、運動中や運動後における下肢の疼痛を緩和する効果があることが明らかとなった。 助成金：221万円 本人担当部分：研究総括、データ収集、分析 研究代表者

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2025年4月から現在	兵庫県看護協会阪神南支部教育委員
2. 2024年12月から現在	Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing会員
3. 2019年12月	第10回日本健康運動看護学会学術集会 運営委員
4. 2017年6月から現在	日本看護科学学会会員
5. 2017年4月から現在	日本運動器看護学会査読委員
6. 2017年4月から2017年10月	第8回日本健康運動看護学会学術集会 企画運営委員
7. 2013年4月から現在	日本看護研究学会会員
8. 2012年4月から現在	日本運動器看護学会会員
9. 2010年8月から現在	日本看護技術学会会員
10. 2005年4月から現在	日本看護協会会員